

令和5年度 第1回伊賀市民美術展覧会運営委員会概要

■日 時／ 令和5年5月31日（水）午後6時～7時30分

■場 所／ 伊賀市役所 本庁4階406会議室

■出席者／ **委員**

[絵画部門] 富田儀孝委員、津田義夫委員

[彫塑工芸部門] 小島憲二委員（副委員長）、惠村正大委員

[写真部門] 城島正子委員、牧戸勲委員

[書部門] 稲森須美子委員（委員長）、中野佐恵子委員

事務局

[(公財)文化都市協会] 服部参事、杉本係長

[伊賀市文化振興課] 文化振興課長 西村、 寛

1 あいさつ

2. 委員紹介

3 委員長、副委員長の選出

協議により以下のとおり決定

委員長：稲森須美子委員（絵画）

副委員長：小島憲二委員（写真）

4 協議事項

(1) 第19回の展示について

【資料3】 第19回年間スケジュールについて

【資料4】 3月スケジュールについて

→異議なしのため、資料のスケジュールのとおりとする。

(2) 募集要項について

【資料5】 募集要項案

・「展示作品」の欄について

過去には「運営委員・審査員の作品」として展示していたが、第8回（平成26年度）から現状として伊賀在住の運営委員・審査員経験者の人にも出品依頼をして「無鑑査」と表示して展示していた。一般の人の目に触れる「無鑑査」と事務局が展示する「無鑑査」に差があったため、今回からはひとくくりに無鑑査とせず、展示の際には「無鑑査」「運営委員（現旧）」「審査員（現旧）」と表示して展示する。

- ・「絵画部門出品規定」について
額の一辺を最大8センチ以内と追記した。
- ・広域連携（いこか交流）の表記について
交換展示（予定）として記した。

- ・年齢規定について

昨年度2月に「なぜ市展は年齢の下限を定めているのか」と意見いただいた。昨年度の反省会でも共有したところ、「年齢の下限についての意見をいただいたのはこの一件のみであり、下限を下げたり中学生部門を作った場合、中学生の応募数が予測できない以上、下限を変えるのは早いのではないか」「中学生が応募できる、もしくは中学生部門がある公募展を受け皿としてもらう」などの意見を昨年度運営委員からいただいた。

以上の意見を踏まえ現行の例年通りの規定から変更せず、高校生の年齢からの募集とする。

→各項目について全員異議なしのため承認。

委員：昼間働かれている方から「搬入を土曜日や日曜日」にしてほしいとの意見がある。

事務局：昨年はたまたま土日だったが（正しくは木曜日）、夜7時まで搬入を行うことで働いている人へのカバーとしている。実際に事務局のアンケートで搬入についての意見はいただけていない。

委員：勤務の関係でこの時間帯は難しい人もいると思う。

事務局：8時、9時まで延長すればよいのか。

委員：1時間延長するとか、土日の午後とかにできないのか。休みの日に搬入できないか。

事務局：3月3日（日）にぶんと主催のイベントがあり、ホワイエはじめホールを使用できない。また、搬入の受付には運営委員の皆様にも立ち会ってもらって作品が規定に合っているか確認いただいているため、皆さんに時間作っていただければ土日搬入も可能かと思うが、今回は月曜日に設定させていただいている。

委員：了解した。

（3）無鑑査について

【資料6】【資料6-2】

絵画部門 石川氏について

石川氏は前々回までの受賞歴で市長賞（市展いが賞）を含む上位3賞を受賞していた。しかし、事務局のチェックが行き届かず、昨年度に運営委員会で承認をいただいて無鑑査になっていただくべきところ、承認が1年遅れている。石川氏には、事務局から無鑑査になっていただけないかと事情を説明しに行く。

委員：これから石川さんに伝えていただいて、無鑑査に入っていただくということか。

事務局：今この場で運営委員の承認をいただければ事務局から連絡し石川さんからもご承諾得られれば、以降石川さんを無鑑査として加えることになる。

委員：令和5年度での承認になるということか。

事務局：令和5年度での承認となり、今年度（令和5年度）からの無鑑査となる。

→異議なしのため、承認。

・無鑑査作品規定について

絵画部門 一般作品と同様額の最大幅は8センチ以内とすることを追記した。

→異議なしのため、承認

（4）審査員について

【別表1】【別表2】

審査員の推薦にあたって3年連続で就任いただけないこと、可能な限り関西圏の人を入れていただくことを説明。

推薦書〆切：6月23日

審査員の報酬・交通費について

審査会については日額10,000円、講評会は6,000円。交通費は公共交通機関であれば全額支給で、車の場合は1kmごとに37円となる。

（5）その他

【R4年度市展決算】【R5年度市展予算】

昨年度の決算、今年度の予算について説明。

今年度のワークショップは彫塑工芸部門で行う予定。

次回運営委員会は8月上旬で開催予定。

【終了】